

3. 留萌^{さいしよ}で最初の^{ぎよば}ニシン漁場

留萌^{さいしよ}へ最初^{でかせ}に出稼^{ぎよみん}ぎに来た漁民^{へいのじょう}の1人が佐賀平之丞^{さいしよ}で、
弘化元年^{こうか}(1844)に現在^{げんざい}の佐賀家^{ぎよば}漁場^{ぎよば}の場所^{ぎよば}にニシン漁場
を開きました。

ただし、当時は松前^{まつまえ}に住んでいる人しかニシン漁^{りょう}をす
ることができなかつたため、松前^{まつまえ}の田中^{とうざえもん}藤左衛門^{とうざえもん}の名前
を借りてニシン漁^{りょう}を始めたのです。



留萌^{さいしよ}でもニシン漁^{りょう}が
始まったMO~!

あんせい いこう でかせ きゅうげき ふ
安政4年(1857)以降に出稼ぎ人数が急激に増えて、ル
モッペ場所のニシン製品の生産高(※32)も増えていきま
した。



江戸時代の礼受(北海道歴検図 北海道大学附属図書館蔵)

※32 生産高

作ったものの量(りょう)を金額(きんがく)で示した(しめ)もの。